

# 四半期報告書

(第78期第1四半期)

自 平成24年4月1日

至 平成24年6月30日

**ニチコン株式会社**

京都市中京区烏丸通御池上る  
二条殿町551番地

E01904

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

### 第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

### 第3 提出会社の状況

1 株式等の状況	6
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) ライツプランの内容	6
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	7
2 役員等の状況	7

### 第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
2 その他	15

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【四半期会計期間】	第78期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）
【会社名】	ニチコン株式会社
【英訳名】	NICHICON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 荒木 幸彦
【本店の所在の場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231-8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部長 古川 芳昭
【最寄りの連絡場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【電話番号】	(075) 231-8461 (代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部経理部長 古川 芳昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 第1四半期 連結累計期間	第78期 第1四半期 連結累計期間	第77期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高（百万円）	29,587	22,491	107,658
経常利益（百万円）	1,996	923	3,192
四半期（当期）純利益（百万円）	1,247	478	1,157
四半期包括利益又は包括利益（百万円）	1,144	△567	1,202
純資産額（百万円）	94,332	92,842	94,084
総資産額（百万円）	136,067	135,779	139,150
1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	17.47	6.70	16.20
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	68.6	67.5	66.7
営業活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	2,423	4,319	7,917
投資活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	390	△2,790	△11,595
財務活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△653	△755	6,363
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高（百万円）	16,224	17,515	16,804

（注）1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年6月30日）のわが国経済は、東日本大震災の復興需要を背景とした緩やかな回復基調にありましたが、電力不足問題や円高、株式市場の低迷などにより依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。海外においては、欧州は財政危機問題が長期化する中で景気低迷が続いており、中国を含む新興国においても経済成長の減速が顕著となりました。また、米国においても景気回復のペースが鈍化しており厳しい経営環境となりました。

当社グループが関連する市場におきましては、このような経営環境のなか、デジタル家電やパソコン等の在庫調整が続き、電子部品の需要は総じて低調に推移しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は22,491百万円と前年同期比24.0%の減収となりました。また、利益につきましては、営業損失は261百万円（前年同期は2,210百万円の営業利益）、経常利益は923百万円と前年同期比53.8%の減益、四半期純利益は478百万円と前年同期比61.7%の減益となりました。

このような状況のなかで、当社グループは中期経営計画の経営ビジョンに沿って、コンデンサ、回路、インバータ等のコア技術を核としてデジタル&パワーエレクトロニクス分野に注力するとともに、高い成長が期待できるエコ、EV/HV（電気自動車／ハイブリッド車）、インバータ関連事業を経営の新たな柱とするために、環境関連のパワーエレクトロニクスビジネスを統括する「NECST（Nichicon Energy Control System Technology）プロジェクト」を推進し、世界初の「V2H（Vehicle to Home）システム」となる「EVパワーステーション」や家庭用蓄電システム「ホーム・パワー・ステーション」などの事業化を進めています。また、新興国市場における販売網の拡大や、海外での生産体制の増強を実施するとともに、原価低減や品質向上に向けた徹底的な取組みを行っています。

製品区分別売上高につきましては、電子機器用は、デジタル家電機器およびインバータ機器向けなどの需要の伸び悩みなどにより15,702百万円と前年同期比32.0%の減収となりました。

電力・機器用及び応用機器は、応用機器の売上減少などにより2,045百万円と前年同期比13.3%の減収となりました。

回路製品は、各種電源では事務機器およびアミューズメント向けの需要が比較的堅調に推移したことに加え、機能モジュールについて電気自動車向け需要が好調であったことなどにより4,655百万円と前年同期比19.7%の増収となりました。

海外売上高につきましては、アジア市場において情報通信機器およびインバータ機器向けの受注が伸び悩んだこと、欧米市場においても自動車関連機器向けの需要が前年同期比減少したことなどにより25.1%の減収となりました。一方、国内市場についても全般的な需要の減少などにより22.5%の減収となりました。これらの結果、連結売上高に占める海外売上高の割合は、前年同期比0.8ポイント低下し56.7%となりました。

設備投資につきましては、企業競争力の更なる強化と販売競争の激化、グローバル体制の構築に対処するための増産投資、技術開発投資を中心に1,939百万円を実施しました。

所在地別業績は、次のとおりであります。

①日 本

国内においては、デジタル家電機器やインバータ機器向けなどの需要が伸び悩んだことなどにより、売上高は10,344百万円と前年同期比20.9%の減収となりました。営業利益は、差別化商品・高付加価値商品の拡販、生産性向上によるコストダウンなどの収益性向上対策を推進しましたが、円高の影響を受けたことおよび前年度からの設備投資増強による償却費負担の増加などにより726百万円の営業損失（前年同期は618百万円の営業利益）となりました。

②米 国

米国地域においては、自動車およびAV機器向け需要が前年同期に比べ減少したことなどにより、売上高は1,330百万円と前年同期比21.3%の減収となりました。営業利益は、販売コスト削減等を図りましたが、売上高の減少等により31百万円と前年同期比84.0%の減益となりました。

③アジア

アジア地域においては、事務機器向け需要が比較的堅調に推移しましたが、情報通信機器およびインバータ機器向け需要が減少したことなどにより、売上高は9,440百万円と前年同期比26.8%の減収となりました。営業利益につきましては、材料費や人件費などのコスト削減など継続的に推進しましたが、売上高の減少などにより180百万円と前年同期比82.4%の減益となりました。

④欧州他

欧州その他の地域においては、民生機器向けおよび自動車向け受注の減少等により売上高は1,375百万円と前年同期比28.1%の減収となりました。営業利益につきましては、販売コストの削減等を図りましたが、売上高の減少などにより208百万円と前年同期比43.9%の減益となりました。

・所在地別業績

前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	13,079	1,691	12,902	1,914	29,587	—	29,587
(2)所在地間の内部売上高又は振替高	6,281	0	895	—	7,177	△7,177	—
計	19,361	1,691	13,797	1,914	36,764	△7,177	29,587
営業利益	618	197	1,024	371	2,212	△1	2,210

当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	アジア (百万円)	欧州他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	10,344	1,330	9,440	1,375	22,491	—	22,491
(2)所在地間の内部売上高又は振替高	4,097	0	1,045	0	5,142	△5,142	—
計	14,442	1,331	10,485	1,375	27,634	△5,142	22,491
営業利益又は営業損失	△726	31	180	208	△306	44	△261

・海外売上高

前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）

	米州	アジア	欧州他	計
I 海外売上高（百万円）	1,692	13,402	1,925	17,019
II 連結売上高（百万円）				29,587
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	5.7	45.3	6.5	57.5

当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

	米州	アジア	欧州他	計
I 海外売上高（百万円）	1,332	10,040	1,377	12,750
II 連結売上高（百万円）				22,491
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	5.9	44.7	6.1	56.7

・販売実績

製品区分	前第1四半期連結累計期間 （自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）		当第1四半期連結累計期間 （自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）		増減	
	金額 （百万円）	構成比 （%）	金額 （百万円）	構成比 （%）	金額 （百万円）	増減比 （%）
電子機器用	23,095	78.1	15,702	69.8	△7,393	△32.0
電力・機器用及び応用機器	2,360	8.0	2,045	9.1	△314	△13.3
回路製品	3,890	13.1	4,655	20.7	765	19.7
その他	241	0.8	88	0.4	△152	△63.2
合計	29,587	100.0	22,491	100.0	△7,096	△24.0

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ711百万円増加し17,515百万円となりました。当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって得られた資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ1,896百万円増加し4,319百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益827百万円の計上、減価償却費が1,829百万円発生したことに加え、売上債権の減少額が3,274百万円となったことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ3,181百万円支出が増加し2,790百万円の支出となりました。これは主に、有価証券の償還による収入が2,300百万円となりましたが、有形固定資産の取得による支出が2,730百万円、有価証券および投資有価証券の取得による支出が2,441百万円となったことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は、前第1四半期連結累計期間に比べ101百万円支出が増加し755百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払額が535百万円となったことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

株式会社の支配に関する基本方針について

①基本方針

当社は、「より良い地球環境の実現に努め、価値ある製品を創造し、明るい未来社会づくりに貢献していくこと」を経営理念に掲げています。また、倫理的・社会的責任を果たすとともに、株主の皆様をはじめとする全ての人々を大切にし、企業価値の最大化を目指して、「誠心誠意」をもって「考働」しております。

この経営理念に基づき、会社の支配に関する基本方針として、当社に対し買収提案が行われた場合は、これを受け入れるか否かの最終的な判断は、その時点における当社株主の皆様にご委ねられるべきであり、またその場合に株主の皆様が、十分な情報と相当な検討期間に基づき、公正で透明性の高い株主意思の確認手続きを通じた判断（インフォームド・ジャッジメント）を行えるようにすることが、企業価値および株主共同の利益の確保と向上のため必要であると考えております。

②取組みの具体的な内容

上記基本方針のもと、当社は、平成18年5月31日開催の当社取締役会において、「当社株式の大量買付けに関する適正ルール（買収防衛策）」（以下「本ルール」といいます。）の導入を決議いたしました。

しかしながら本ルールの導入後、金融商品取引法の改正により、株主の大規模買付行為に関する手続きが整備され、株主の皆様が大規模買付行為を適切に判断するための情報提供と検討期間を確保するという、本ルールの目的が一定程度担保されるようになりましたため、平成24年5月9日開催の当社取締役会において本ルールを平成24年5月31日の有効期限満了により終了とし、継続しないことを決議いたしました。

当社は、本ルールの非継続後も当社株式の大規模買付行為が行われた場合には、当社の企業価値および株主共同の利益を確保するために、積極的な情報収集と適時開示に努めるとともに、その時点において適切な措置を講じてまいります。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は831百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	137,000,000
計	137,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	78,000,000	78,000,000	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	単元株式数 100株
計	78,000,000	78,000,000	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日	—	78,000,000	—	14,286	—	17,065

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

### ① 【発行済株式】

(平成24年6月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,559,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 71,374,200	713,742	—
単元未満株式	普通株式 66,400	—	—
発行済株式総数	78,000,000	—	—
総株主の議決権	—	713,742	—

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

### ② 【自己株式等】

(平成24年6月30日現在)

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ニチコン株式会社	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地	6,559,400	—	6,559,400	8.41
計	—	6,559,400	—	6,559,400	8.41

## 2 【役員】の状況

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までににおける役員の異動は、次のとおりであります。

### 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	執行役員常務 IR室長	取締役	執行役員常務 管理本部経理部長兼IR室長	近野 齊	平成24年7月1日
取締役	執行役員 営業本部 海外営業担当	取締役	執行役員 営業本部長	井上 信夫	平成24年7月1日

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）および第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,214	17,825
受取手形及び売掛金	※ 29,794	※ 26,179
有価証券	4,814	7,424
商品及び製品	8,193	6,805
仕掛品	5,726	6,157
原材料及び貯蔵品	4,673	4,869
その他	1,699	3,890
貸倒引当金	△80	△75
流動資産合計	72,035	73,076
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,596	16,102
機械装置及び運搬具（純額）	14,685	13,694
その他（純額）	9,486	11,014
有形固定資産合計	40,768	40,811
無形固定資産	729	697
投資その他の資産		
投資有価証券	23,454	19,091
その他	2,712	2,652
貸倒引当金	△549	△549
投資その他の資産合計	25,617	21,194
固定資産合計	67,114	62,703
資産合計	139,150	135,779

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※ 16,952	※ 15,988
短期借入金	5,500	5,500
未払法人税等	1,056	709
賞与引当金	1,069	408
その他の引当金	25	25
その他	※ 9,350	※ 10,005
流動負債合計	33,952	32,637
固定負債		
長期借入金	4,000	4,000
退職給付引当金	3,446	3,341
その他	3,666	2,958
固定負債合計	11,113	10,299
負債合計	45,066	42,937
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,286	14,286
資本剰余金	17,069	17,069
利益剰余金	72,830	72,772
自己株式	△8,116	△8,116
株主資本合計	96,068	96,011
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,002	764
為替換算調整勘定	△5,220	△5,058
その他の包括利益累計額合計	△3,218	△4,293
少数株主持分	1,233	1,124
純資産合計	94,084	92,842
負債純資産合計	139,150	135,779

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	29,587	22,491
売上原価	24,443	19,996
売上総利益	5,144	2,495
販売費及び一般管理費	2,933	2,756
営業利益又は営業損失(△)	2,210	△261
営業外収益		
受取利息	66	52
受取配当金	112	106
持分法による投資利益	1	—
移転補償金	—	2,000
その他	42	74
営業外収益合計	223	2,233
営業外費用		
支払利息	8	26
持分法による投資損失	—	38
為替差損	385	387
設備移設費用	—	559
その他	42	35
営業外費用合計	437	1,048
経常利益	1,996	923
特別利益		
新株予約権戻入益	88	—
その他	2	0
特別利益合計	90	0
特別損失		
固定資産処分損	1	95
投資有価証券評価損	225	—
特別損失合計	227	95
税金等調整前四半期純利益	1,859	827
法人税、住民税及び事業税	514	290
法人税等調整額	41	4
法人税等合計	556	295
少数株主損益調整前四半期純利益	1,303	532
少数株主利益	55	53
四半期純利益	1,247	478

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,303	532
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△112	△1,154
為替換算調整勘定	△46	101
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△45
その他の包括利益合計	△159	△1,099
四半期包括利益	1,144	△567
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,101	△596
少数株主に係る四半期包括利益	43	29

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,859	827
減価償却費	1,851	1,829
投資有価証券評価損益 (△は益)	225	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,597	3,274
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△545	594
仕入債務の増減額 (△は減少)	971	△544
その他	1,255	△1,221
小計	3,020	4,759
法人税等の支払額	△767	△572
その他	170	132
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,423	4,319
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	—	△2,110
有価証券の売却及び償還による収入	1,500	2,300
有形固定資産の取得による支出	△921	△2,730
投資有価証券の取得による支出	△201	△331
その他	12	81
投資活動によるキャッシュ・フロー	390	△2,790
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△535	△535
その他	△118	△220
財務活動によるキャッシュ・フロー	△653	△755
現金及び現金同等物に係る換算差額	△78	△61
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,081	711
現金及び現金同等物の期首残高	14,143	16,804
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 16,224	* 17,515



【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業損失、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響額は軽微であります。

【会計上の見積りの変更】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
受取手形	226百万円	189百万円
支払手形	516	444
設備関係支払手形(その他流動負債)	339	429

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
現金及び預金	16,224百万円	17,825百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	—	△309
現金及び現金同等物	16,224	17,515

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	535	7.5	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額の内、1円00銭は創立60周年記念配当金であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	535	7.5	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

当社グループは、「コンデンサおよびその関連製品」の製造ならびに販売を主な事業としており、各拠点に製品の販売もしくは製造、またはその両方の機能を置き、本社はグループ全体の戦略を立案し、事業活動を展開しております。当社グループは、各拠点別を基礎とした事業セグメントから構成されており、経営意思決定および業績評価を行っておりますが、当該事業セグメントの経済的特徴、製品およびサービスの内容、製品の製造方法または製造過程やサービスの提供方法などの要素が概ね類似していることから、「コンデンサおよびその関連製品」の単一の報告セグメントとしており、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	17円47銭	6円70銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,247	478
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,247	478
普通株式の期中平均株式数(千株)	71,440	71,440

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月7日

ニチコン株式会社  
取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 一浩 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 長野 秀則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているニチコン株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ニチコン株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年8月10日
【会社名】	ニチコン株式会社
【英訳名】	NICHICON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 荒木 幸彦
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	京都市中京区烏丸通御池上る二条殿町551番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 荒木 幸彦は、当社の第78期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。